



学校だより

平成30年 1月31日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.478

長い目で見て育てる 根気強く育てる よいところを伸ばす

副校長 横尾 康幸

教師になって久しくたちますが、素晴らしい保護者の方々に何人も出会いました。今回は、その中から一人のお母様をご紹介します。そのお母様は、目先のことだけにとらわれず、長期的な視野に立って子育てを考えることのできるお母様でした。しかも、根気強くお子さんを励まし、よいところを伸ばすのがとても上手な方でした。

今から十数年前、私が5年生の担任をしていた時に一人の女の子が転入してきました。

彼女は、父親の仕事の都合で、幼少時から海外での生活をしてきました。近くに日本人学校がなかったので現地校に通っていました。日本語を使う機会は家庭にいる時だけで、少しでも込み入った話になると、日本語では説明できず英語を使っていたそうです。

帰国後、彼女にとって日本の学校は苦労の連続でした。昇降口で上履きに履き替えること、和式のトイレを使うこと等、日本の学校に通ってきた子供たちには何でもないことの一つ一つに慣れるのが一苦労でした。

一番困ったのは漢字や日本語の文法です。特に漢字は3年生前半くらいのレベルでした。このような状況でしたから、彼女のお母様とはほぼ毎週のように面談をしていました。

ある日、漢字の力をどうにかしようという話になりました。その時、お母様からこんな話が出たのです。

「先生、うちの子は漢字が苦手なので1年生のドリルを買ってきて、毎日、1ページずつ練習させることにします。先生にはご面

倒をおかけしますが、ノートを出させますので励ましてくださいますか。…」

私は、3年生のレベルだったので、4年生の漢字から練習してもよいのではと考えていました。何より一番心配だったのは、5年生の子供が果たして1年生のドリルをやるのだろうかということでした。

しかし、そのお母様は、面談で話していたことを見事にやってのけました。5年生だというお子さんの気持ちを大切にしながら、今の状況を上手に伝え、こつこつ努力を続けていくことで、数年後にはこのような姿になれると見通しをもたせることをしたのです。

小学校卒業の時点では、漢字は5年生のレベルに達したか達しないかぐらいのところでした。そのため、お母様はお子さんが中学生になってからも、焦らず、しかし、丁寧に漢字練習に付き合っていました。その一方で、お子さんのよいところや得意なことを褒めながら、そこを伸ばす努力もされていました。

最近、彼女の様子を聞く機会がありました。中学校2年生くらいまでは学習に苦労したようでしたが、高校に入る頃には完全に、漢字、そして日本語の文法を克服したとのことでした。もともと優れていた英語力が一層の開花をし、難関大学に見事合格。その後、航空会社に入社し、長年の夢だったというキャビン・アテンダントになり世界中を飛び回っているという話でした。

子育てのヒントがたくさんありそうだったので、ご紹介させていただきました。